

いけんひろば

わかもの
こども・若者の居場所づくりの取組について、
どんな伝え方をすれば良いと思いますか？

報告資料

2024年9月10日（火）～9月23日（月）アンケート開催^{かいさい}

2024年9月11日（水）オンライン開催

2024年度「こども若者★いけんぷらす」事業

かいさいがいよう
● **開催概要**

● **参加者の意見**

1. 居場所づくりの取組について
2. 広報資料（案）について

● **オンライン回参加者アンケート**

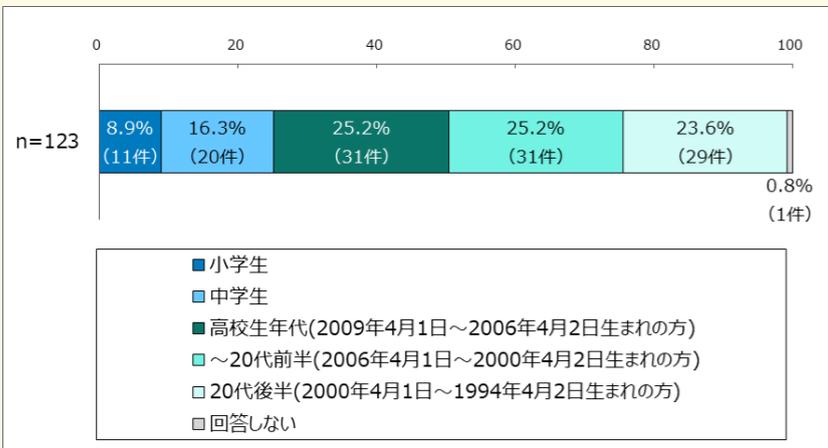


開催概要

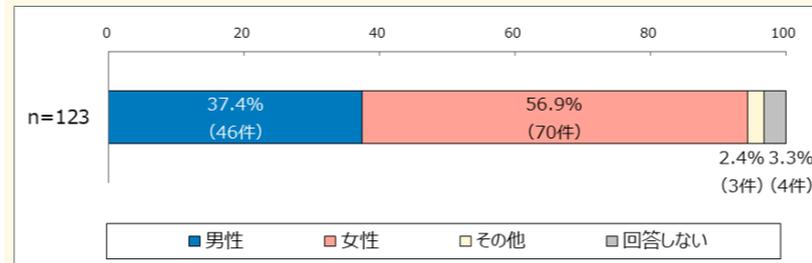
テーマ	わかもの こども・若者の居場所づくりの取組について、どんな伝え方をすれば良いと思いますか？
担当省庁 たんとうしょうちょう	こども家庭庁
テーマ説明	令和5年12月に「こどもの居場所づくりに関する指針 ^{ししん} 」ができ、国全体でこども・若者の居場所づくりを進めていくことが決まりました。この指針では、こども・若者が居場所と感じる場所が居場所であり、どんな場所が居場所になり得るかは、こども・若者の声をよく聞いて考えていくこととされています。指針の内容をこども・若者のみなさんにも知ってもらいたいと、動画・パンフレットを作っています。どんな見せ方だとわかりやすいか、アイデアを聞かせてください。
参加対象者	「こども若者★いけんぷらす」の「ぷらすメンバー」に登録している方のうち、小学5年生以上の方

オンライン		アンケート	
開催日時	令和6年9月11日（水）19:00～21:00	開催日時	令和6年9月10日（火）～9月23日（月）
参加者	<p>○1班 ^{はん}小学生4名</p> <p>○2班 高校生世代※1 4名 ※1 2009年4月1日～2006年4月2日生まれの方</p> <p>○3班 20代前半※2 5名 ※2 2006年4月1日～2000年4月2日生まれの方</p> <p>○4班 20代後半※3 5名 ※3 2000年4月1日～1994年4月2日生まれの方</p>	参加者	回答数：123件

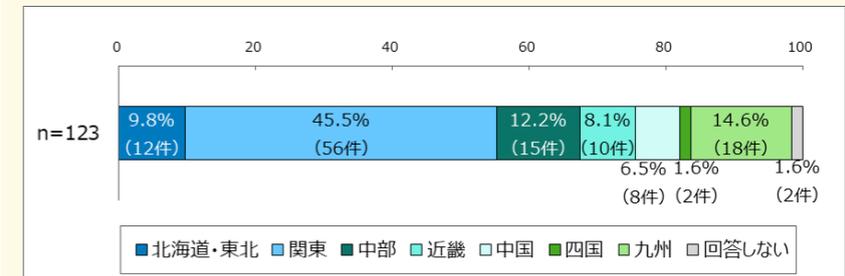
年代



性別



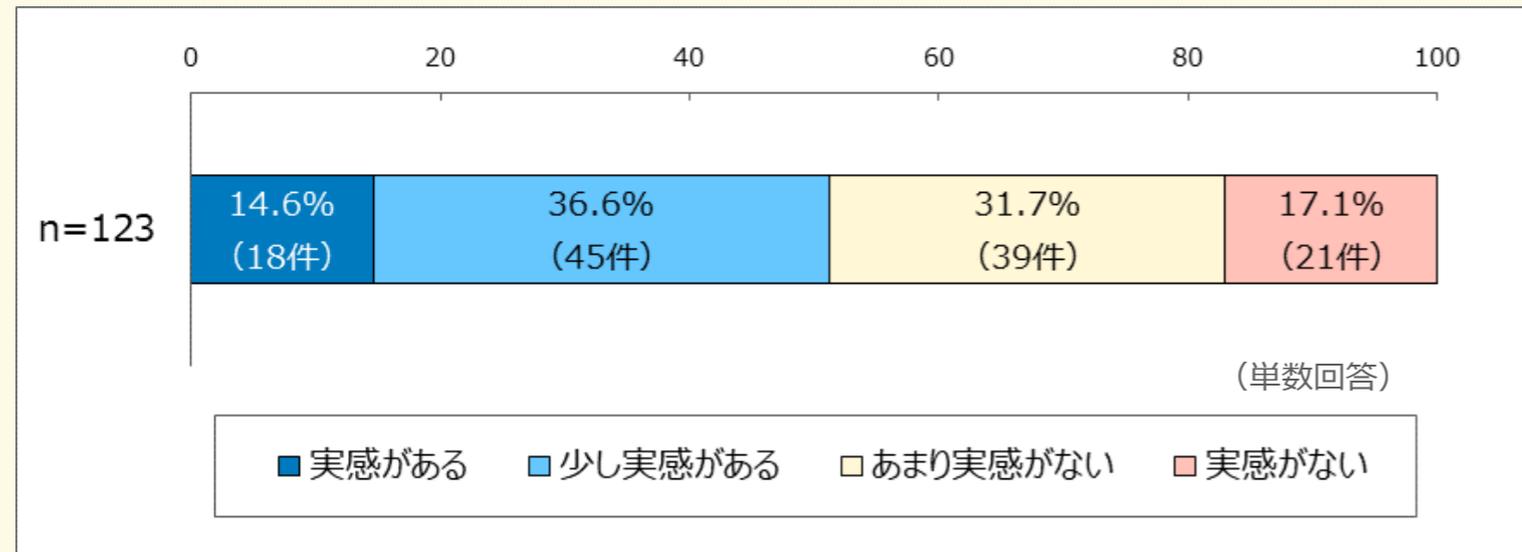
お住まいの地域



1. 居場所づくりの取組について

あなたは、社会や周りの大人に自分の声や要望を聞いてもらえているという実感がありますか。

アンケート



「実感がある」「少し実感がある」と答えた人は約半分（51.2%）となりました。



あなたは、社会や周りの大人に自分の声や要望を聞いてもらえているという実感がありますか。

オンライン

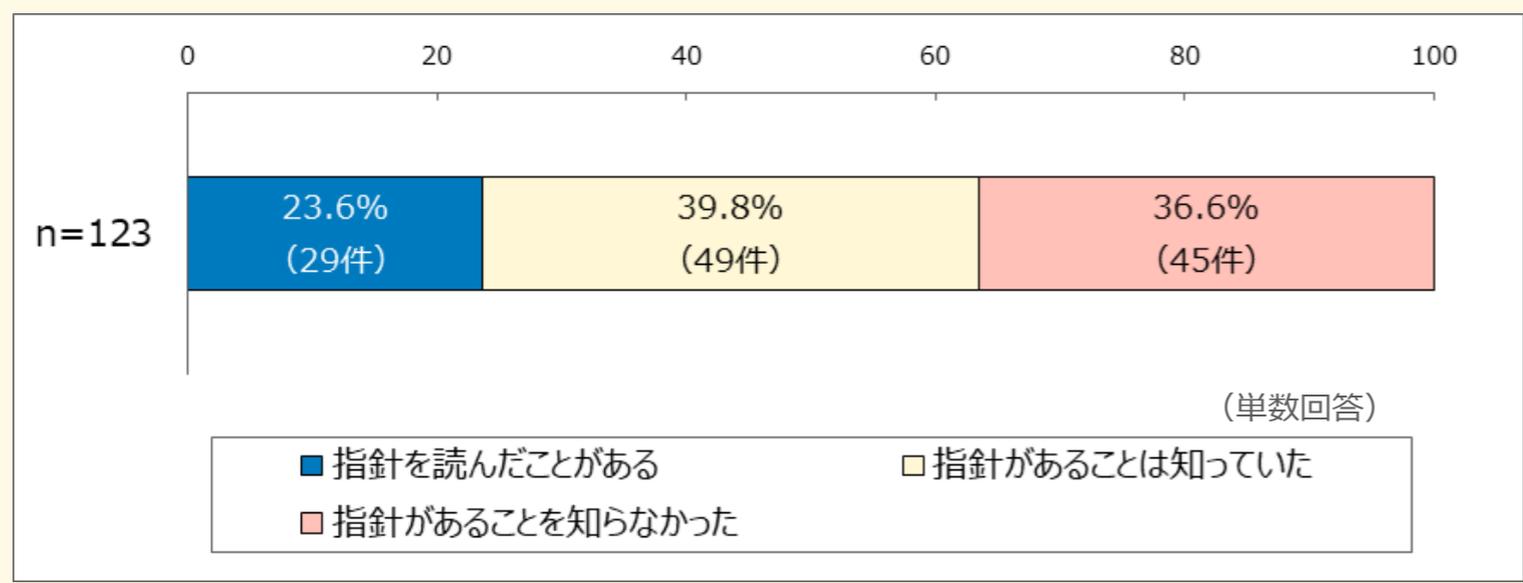
- ### 実感がある
- 学校などで聞いてもらえている気がする。(小学生)
 - 自身は積極的に意見を伝えていくタイプであり、周りの人にも恵まれたので、自分の声や要望を聞いてもらえないというような不自由は感じていなかった。(高校生年代)
 - 20歳を超えて、やっとちょっと聞いてもらえるようになった感覚がある。自分に伝える力がついたり、要望が通らなかったときには環境を変えることができるようになったからだと思う。(20代前半)

- ### その他
- 相手や場面によって、どれくらい聞き入れてもらえるかが変わらと思う。(高校生世代)

- ### 実感がない
- 聞いてもらえているが実現はしていないと思う。今年転校したが環境に慣れなかったため、学校の相談室に行って話を聞いてもらったことがあるが、相談してもあまり変わらなかった。(小学生)
 - 一般的に親の力が強いことが多いため、本当に困っているこどもたちの声はほとんど反映されていないと思う。(高校生年代)
 - 大人はよく「忙しくて時間が無いから聞けない」と言うが、そうすると自分の声や要望を聞いてもらえる実感はない。(20代前半)
 - 自分が住んでいる地域では、こどもや若者に対する扱いが厳しい。高齢者の意見の方が若者の意見よりも尊重されているので、自分たちの声を聞いてもらえているという実感があまりない。(20代後半)

1. 居場所づくりの取組について

「こどもの居場所づくりに関する指針」というものを国が作り、こども・若者の居場所づくりに取り組んでいることを知っていますか。 アンケート



• 「指針があることは知っていた」が最も多く（39.8%）、次に「指針があることを知らなかった」（36.6%）が続きました。



「こどもの居場所づくりに関する指針」をどこで知りましたか。

オンライン

地域活動

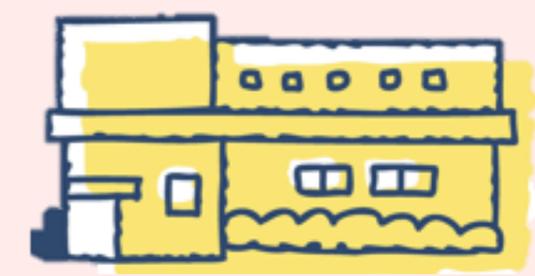
- 地元でユースセンターをつくる活動を進めていく過程で見たことがある。（高校生世代）
- 不登校や課題を抱える児童の支援活動の立ち上げ代表として、活動に参加してくれる人を募集した際に、活動の根拠を説明するために参考にした。（高校生世代）

こども家庭庁

- こども家庭庁のイベントに参加した時に聞いた。（小学生）
- 自分は普段こども家庭庁の新着更新を見ることが好き。こども家庭庁の政策を毎日のように見る中で知った。その中で、「こどもの居場所づくりに関する指針」が県や自治体にも発信されることを知り、嬉しかった。（20代後半）

学校での勉強

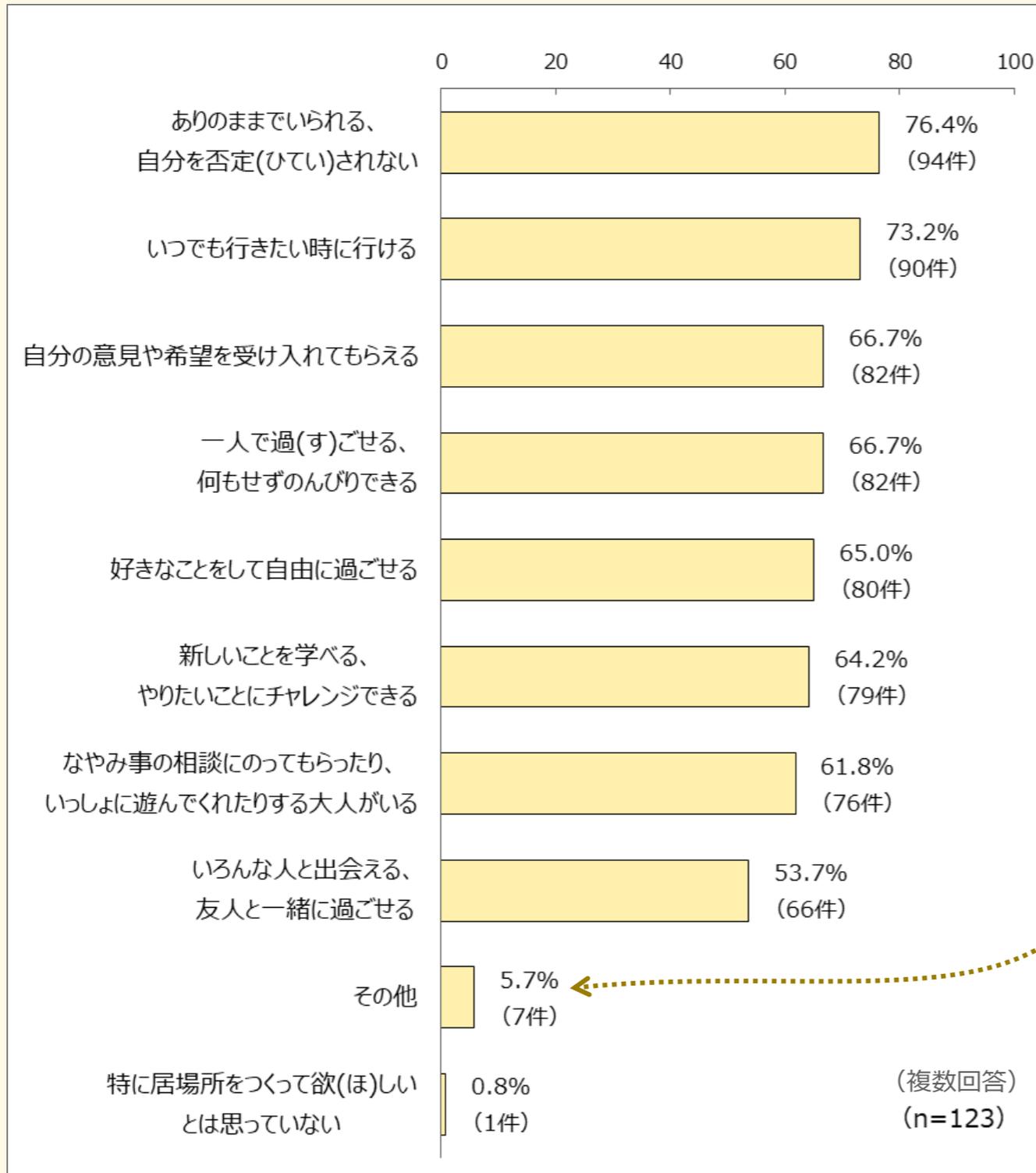
- 福祉について学ぶ大学に通い、福祉の勉強をずっとしているので知っていた。（20代前半）



1. 居場所づくりの取組について

アンケート

こども・若者の居場所づくりの取組によって、どんな居場所がうれしくつくられると嬉しいですか。



- 「ありのままでいられる、自分を否定されない」が最も多く(76.4%)、次に「いつでも行きたい時に行ける」(73.2%)が続きました。

その他の内容 (一部抜粋)

特別感がない

ふだん 普段のストレスを発散したりリラックスできる

かんきょう 複雑な家庭環境や人間関係、学校から解放されて安心できる場所

なや 悩みについて相談した時にその解決に力を貸してくれる大人がいる場所

1. 居場所づくりの取組について

オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

どんな居場所がつけられると嬉しいですか。

困難な時に過ごせる場所

- 一時保護所や養護施設をもっと自由な場所にしてほしい。自身が一時保護所にいた時は、スマホが使えず友達と連絡できなかつたり、学校に行けなかつたりした。(高校生世代)
- 特に、地方の民間シェルターは採算がとれず閉鎖されることが多いので、継続して運営できるよう支援してほしい。(高校生世代)

自由にのびのび過ごせる場所

- ゲームを持ちより、知らない人とでも一緒に楽しくワイワイ遊べる場所があれば最高だと思う。(小学生)
- 中学生以降も行けるような児童館みたいなものができたらと思う。中学・高校生にとっては、自分より年下の子が多かつたり、閉館時間が早かつたりするので利用することが少なくなった。(高校生世代)

秘密が守られる場所

- 何を言っても否定されない場所。また、いけんひろばのように「この場所で聞いたことを他の人には言わない」と約束されている場所。(小学生)
- 家庭の事情が大変なときには、本人に説明して同意を得てから、しかるべき機関に連絡するなどの対応をしてくれる大人がいると、よりこどもたちが安心できるのではないかと思った。(20代後半)

学校に代わる場所

- 学校に行けず勉強についていけない子でも自由に学べるよう、オンラインでも実際に自習室にいるような空間があれば良いと思う。(高校生世代)
- 学校以外の居場所づくりが必要だと感じている。こどもが本気で遊べる、ありのままでいられる居場所を大人が増やしていけば、もっと良い縛られない社会になると思う。できれば、学校の単位が取れる場があれば良い。(20代前半)

落ち着ける場所

- 身近な人から離れて落ち着ける場がほしい。自分は親や先生ともうまくいっていない時期があったので、そういう場所があったら嬉しいと思う。(20代前半)

その他

- 学習できる施設や環境が欲しい。勉強だけではなく、実験やスポーツなど様々なことをお金や年齢に関係なく学べるのが理想。(高校生世代)



1. 居場所づくりの取組について

アンケート

こども・若者が本当に欲しいと思える居場所を実現させていくために、大人やこども・若者は何に気を付けると良いと思いますか。

気を配ること

- 声を聞くだけでなく、心に気遣いがほしい。メンタルが弱い子にも強い子にも優しい社会になってほしい。(小学生)
- 声を上げられない人にも気を配る。(高校生年代)

行動に移すこと

- 聴いた声を確実に政策に活かすこと。(高校生年代)
- 聴いたうえで応えられないことはごまかさずにしっかり対応すること。(20代後半)

実態を知ること

- こどもだけでなく、妊婦や、子育て世代にも、何が必要か聴く。(高校生年代)
- 居場所が欲しいと切に思う方は今いるコミュニティに居場所がないと感じる人たちだと思う。コミュニティにどのようなものがあるか、どういうところに居づらいつのかに目を向けてほしい。(20代前半)
- 実際に小学校など子どもたちのいる場に行き、現在の子どもたちがどのような子なのか、流行りは何なのか、ありのままの子どもの生活を見て考えると、より今の子どもが求めるものに近づくとと思う。(20代前半)

そっとしておくこと

- 一人で遊びたいときは、一人で居たい。(小学生)
- 必要に応じて、「深入りしない」という場所も必要だと思います。(20代後半)

普通に接すること

- 黙ってそばにいる、他愛もない話をする、家族のように接する、特別感を出さない。(高校生年代)
- 大人はこどもの意見を「ただ聞くこと」は良くないことで、相槌を執拗にうったり、それに対する大人としての意見を述べたりするが、そんなことはせず「ただ聞くだけ」の時間がほしい。(20代前半)

その他

- 保護者の居心地も考慮すること。(20代後半)
- こども・若者に関わっている現場の大人だけが大変な思いをせずに済む体制をつくること。(20代後半)



1. 居場所づくりの取組について

オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

こども・若者が本当に欲しいと思える居場所を実現させていくために、大人やこども・若者は何に気を付けると良いと思いますか。

<大人が気を付けると良いこと>

意見を受け止めること

- こどもがどうしたいのかをしっかりと聞いてもらいたい。こどもは自分がされていることに気づけなかったり、本音を言えなかったりするので、大人は「こどもが全てを話している」という前提を持たないでほしい。（高校生世代）
- 自分が教育福祉のアルバイトをしていたときのバイト先の人、「相手の話を聞いているよ」としっかりと伝えてから信頼関係を構築して、そこから「あなたはこう思っているか」という風に対話を深めていた。大人だからといって自分の意見を押し付けるのではなく、こどもの意見を立ち止まって聞く姿勢を大人がとるべきだと思う。（20代後半）

行動に移すこと

- 行動力。大人がこどもの意見を受け止めてちゃんと行動してくれると信用につながる。（小学生）
- 大人の価値観や考えを押し付けないでほしい。また、大人がこどもに対して意見を募ったにも関わらず、結局実行しないというような事態がなくなってほしい。（高校生世代）

干渉しすぎないこと

- 干渉しすぎないことが重要だと思う。居場所があったとしても、大人に干渉されすぎると億劫を感じる。どこまで大人が干渉するべきかという線引きは難しいが、イメージとしては、普段は放任しているが、危なさそうになった時に手を差し伸べてくれる友達の家のお母さんに近い。（高校生世代）

適切な機関・人につなぐこと



- 直接ソーシャルワーカーとつながる仕組みを作ったり、授業で居場所の紹介をしたりしてほしい。全ての学校にソーシャルワーカーがいるわけではなく、ソーシャルワーカーとつながるためには学校の担任教師を間にはさ挟んだりする必要があるため、すぐに自身が求める居場所を知ることができない。（高校生世代）
- こどもや若者の意見をしっかりと受け止めるためには、ときにはカウンセラーのような専門的な仕事の人に対応する必要があると思っている。例えば、こどもや若者から相談を受けてどう答えたらよいか分からないときは、専門家や適した大人に必要なときにつなげるべきだと思う。（20代後半）

<こどもが行動できると良いこと>

- 大人のことを手伝う。（小学生）
- 嘘をつかない。（小学生）
- お互いを理解すること。（小学生）

1. 居場所づくりの取組について

居場所づくりの取組で、こども・若者が本当に欲しいと思える居場所を実現させていくために、こども・若者側が知っておくと良いと思うこと、考えてみたいこととして、何がありますか。

自分が行ける居場所があること

- 安心して相談したり話したりする場所があるんだよ、という周知(小学生)
- 学校が全てではない。頼れるところがあるなら、そこに行くという選択肢があるということを知っておくと良い。(高校生年代)

意見を伝えられること

- 意見を言って何とかしてくれる人が誰なのか、どこにいるのか、どんな方法で伝えたらいいのか。(小学生)

頼れる大人について

- 頼って良い大人か団体なのかどうかの指針。学校も大人も頼らない子には、頼って良いものの判断が難しいため。(20代後半)

配慮すべきこと

- 周りの人たちが傷つくことは言わない。(20代前半)
- 他のこどもは自分と考え方や性格などが違って、個性があるので、人によって居場所は異なること。(高校生年代)

実現できる範囲

- 考えたことがどのくらい形になるのか。(20代前半)

自分にとっての居場所を考える／作ること

- 自分が居たい場所、やりたい事など自分にとって必要な物事を言語化しておくこと。(高校生年代)
- 今ある居場所はどのようなものがあり、どのような工夫があって、利用している子ども目線ではどのような課題や使いにくさがあるのか。今あるものから学んで、よりよい居場所を作っていく方法を考えられたらいいと思いました。(20代前半)

安全・安心に過ごす方法

- 虐待、ヤングケアラーとはどういうもので自分や友達が虐待、ヤングケアラーだと気づいたらどこに助けを求めるべきか。(高校生年代)
- 今、不登校やいじめで悩んでいたり、家に居場所がなくて悲しい思いをしている人は自分で声を上げることは難しい。だから、辛い経験を乗り越えた人や、解決して大人になった人が「あの時こうだった」ということを積極的に発信してほしい。(20代前半)

ありのままで受け入れられること

- 失敗するのは当たり前だし、全然怖いものではないということ。(中学生)

ルール

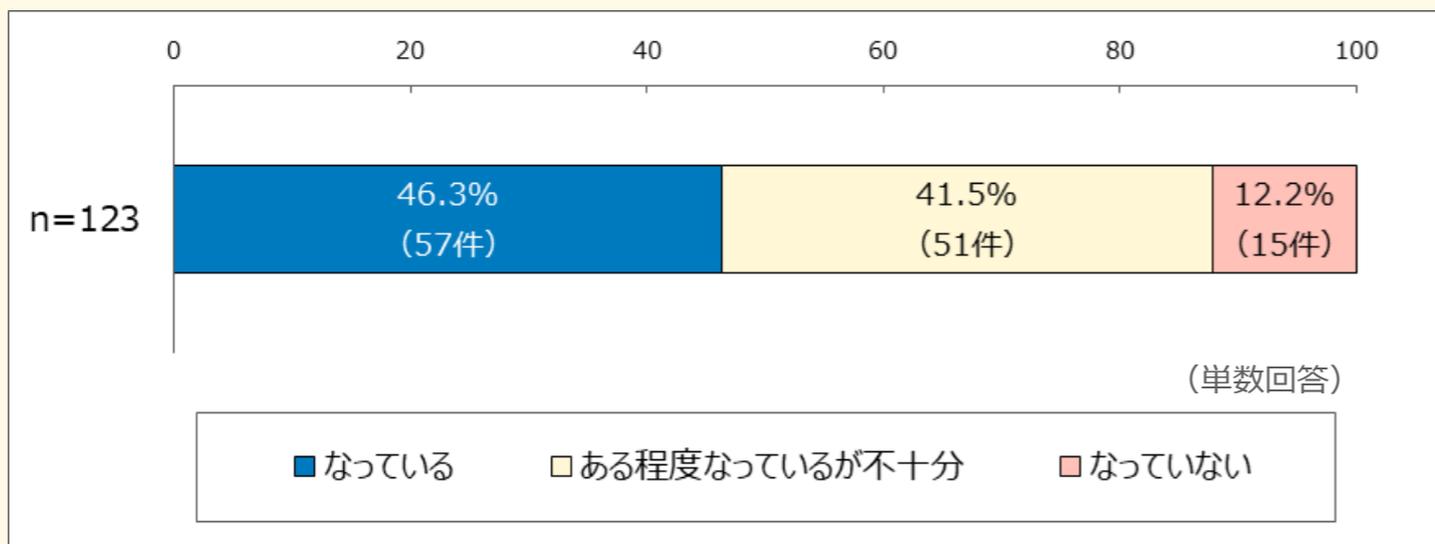
- こども、若者にでもわかりやすい法律を知りたい、勉強する機会を与えて欲しい。自分の身を最後に守れるのは自分だから(20代前半)



2. 広報資料（案）について

アンケート

こども家庭庁が作ろうとしている、居場所づくりに関する広報資料は、みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものになっていますか。



- 「なっている」と答えた人は約半分（46.3%）となりました。



2. 広報資料（案）について

アンケート

みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。（続き）
（前の質問で「ある程度なっているが不十分」「なっていない」を選択した人のみ）

絵や写真を増やす

- イラストを多くする。（20代前半）
- いくつか例になる居場所の写真がほしい。（20代後半）



言語に関して配慮する

- 識字障害や外国籍など文字が読めない子どもでも読めるようにする。（高校生年代）

伝えたいメッセージを強調する

- とても大切なこととして、「居心地がいい」ということを子どもは知りたいと思います。（20代前半）
- 「頼れる大人がいるよ、怖いことはしないよ。」ということを改めて伝えてください。（20代後半）

こども・若者の意見をもっと聴く

- 学校などにもっと話を聞きに来てほしい。（小学生）
- SNS等でしっかり呼びかけ、アンケート等を実施すること。（高校生年代）

読みやすい構成にする

- 左上始まりの漫画はかなり読みづらく感じました。冊子の都合上右上始まりにできなければ、四コマ漫画にしてもいいのではないかと思います。（20代前半）

具体的な説明を記載する

- ただ居場所作りではなく、「家にいたくないとき、虐待を受けているとき助けてほしいとき、親から離れたいとき、いじめられてるときに頼れる場所があるよ」と書いてほしい。（高校生年代）
- そもそもどういときに頼れるのか、どこにあるのかが全く書かれていないので虐待やヤングケアラーなどで家に居場所がないときに頼れることを書く（例：お父さんに殴られている…、ご飯を食べさせてもらえない、病気のお母さんの面倒をみてるなど）。また、具体的な場所を記載する（施設やホームの名前、児童相談所の番号など）。（高校生年代）
- とにかく、具体的にどんなところなのか、どこにあるのか、どうすればその場所を利用できるのか。実際に利用するのに、必要な情報が知りたいと思いました。（20代前半）



2. 広報資料（案）について

オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

① 解説動画

みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

前半



A

B

こども・若者の主観によって決まるんだ



C

どんなところが居場所になっているか



D

多くの子どもにとっては学校も

- A** • 「イバシオン」というキャラクターがもっと個性を持っていると良い。イバシオンは今のところ一匹しかいないようだが、「イバシオン2」のようにそれぞれ個性があるイバシオンがいると良いと思った。（20代後半）
- B** • 言い回しは小学生低学年に伝わるものにする必要がある。「（こども・若者の居場所とは）こども・若者の主観によって決まる」という内容があったが、小学校低学年に伝わるか疑問。（20代前半）
- C** • 最初に居場所の例が挙がるのが唐突に感じる。居場所の定義のあとに、例をあげて、改善するために意見をくださいという構成にしたほうが良い。（20代前半）
- D** • いじめられている子にとっては学校が居場所でないことも多いので、動画を観ても傷つくことがないように配慮してほしい。（高校生世代）
• 学校を第一の場所として紹介していたが、学校や家に居場所がない子を対象としているのであれば、民間シェルターや公的機関が実施している一時保護などをもっと強調した方が良い。（高校生世代）
• 学校のパートの「学校は多くの人にとっての居場所だね」というフレーズは、不登校の学生などが多い現状では疎外感を与えてしまうと思った。（20代後半）

2. 広報資料（案）について

オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

① 解説動画

みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

後半



A

- 「公民館についての説明がないため、どのような場所かについてもう少し詳しく説明すると良いと思う。公民館は「年上の人が集まる場所」と思っているこどもが多い気がするので、「誰でも集える場所」という説明を加えると良いかもしれない。（20代後半）
- 自分が困っている状態でこの動画を観ても、公民館や相談所に行って具体的に何をしてもらえるのかが分かりづかった。簡単な言葉や映像で説明できると良いと思う。（高校生世代）

B

- 声を挙げる方法（メール、先生、親、国など）が分からなかった。大学生になれば、自分で調べたり選挙に行ったりできるが、対象年齢はもっと低いと思うので、方法を提示しないと意見は集まらないと思う。（20代前半）
- こういった場所が居場所なのか分かりやすかったが、どうやって作っていくのかイメージがわからない。こどもだと、誰に相談すればよいか分からないと思う。（20代前半）

C

- こども家庭庁のホームページに遷移するQRコードが載っていたが、現在の動画ではHPを見てみようと思わないので工夫が必要だと思う。（高校生世代）

① 解説動画

みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

全体を通して

動画の長さについて

- 今でも短いとは思いますが、もうちょっと短いほうが子どもにとっては良い。（小学生）
- 動画の長さが2分20秒とのことだが、1分程度の動画を見慣れている子どもが多いと思うので、そこまで関心のない子が観るのは難しいかもしれない。（高校生世代）



音楽を追加する

- BGMなどはつけたほうが良い。（高校生世代）
- 音楽を入れても良いと思う。（20代前半）

伝えたい相手を意識する

- 伝えたいことは理解できるが対象が散らかっている印象を受けた。（20代後半）
- 全体を通して、「こども」の居場所づくりがメインだと思うが、「こども若者」の居場所づくりを推進しようというように、「若者」が含まれている場合と含まれていない場合があるので、対象を明確化するべきだと思う。（20代後半）

具体的な記載を増やす

- 全体を通して動画の内容が抽象的だと感じる。自分が家や学校に居場所がないと感じている時にこの動画を見ても、どうしたらいいのか分からない。家や学校以外の居場所を具体的に紹介してほしい。（高校生世代）
- 具体的な居場所の名前や連絡先、住所などもう少し情報を入れてほしい。（高校生世代）
- マジョリティにフォーカスして学校や公民館といった場所を具体例として挙げるのはよいが、ヤングケアラーなどの学校に行けない、家から出られない子どもに向けて、困ったときに行ける場所（自立相談支援センターや、児童相談所の一時保護、フリースクールなど）の一覧を二次元コードで示すなど追加情報があると良い。（20代前半）



2. 広報資料（案）について

オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

②パンフレット（1ページもの）

みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

オモテ



- A** • 「こどもの居場所づくり推進中！」と書いてあるが、「推進中」という言葉をどれくらいのこどもが理解できるか疑問に思った。「こどもの居場所 増えています」といったキャッチフレーズにしたほうが良い。言葉は簡単にしないと理解してもらえない。（20代前半）
• こどもの居場所づくりが進んでいるのは分かるが、自分にとってどんな利益があるのかが分かりづらいと感じた。パンフレットの目的を「自分の地域にも居場所があるし、居場所はつくれる」という形で、もう少し明確にした方が良いと思う。（20代後半）
- B** • 吹き出しの「ここに文字が入ります」の部分について、もうちょっと文字を大きくしたほうが読みやすいと思う。（小学生）
- C** • イラストの中の「こども食堂」の字が小さい。（小学生）
• 青い建物に書いてある「公民館」という文字が見えづらい点。（20代後半）
- D** • 表面の「こども・若者の居場所づくりを応援しよう」に続く文章が詰まっていると感ずるので、この部分を削除するか裏面に移動するなどして、表面はマップのみにした方が見た瞬間にメッセージが伝わりやすくなると思う。（高校生世代）

2. 広報資料（案）について

オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

②パンフレット（1ページもの）

みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

ウラ

A

B

C

こどもの居場所とは?

居場所づくりとは?

みんなの役割

こども家庭庁 〒100-6090 東京都千代田区霞が関3-2-5c霞が関ビルディング14階、20階、21階、22階
TEL.03-6771-8030

A

チラシから堅い雰囲気が出ているとあまり見ようと思わないので、もう少し目を引くようなインパクトのあるものになった方がいい。話のネタに昇華できるくらいの方が興味を持たれると思う。（高校生世代）

B

具体的な場所に関する情報が記載されていないので、必要な支援が届かないと思う。（高校生世代）

C

載せたい情報がたくさんあるのは理解できるが文字数が多いので、時間がない中学・高校生は見ようと思わないと思う。パッと見た時に興味をそそられるようなものにすると思う。（高校生世代）



2. 広報資料（案）について

オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

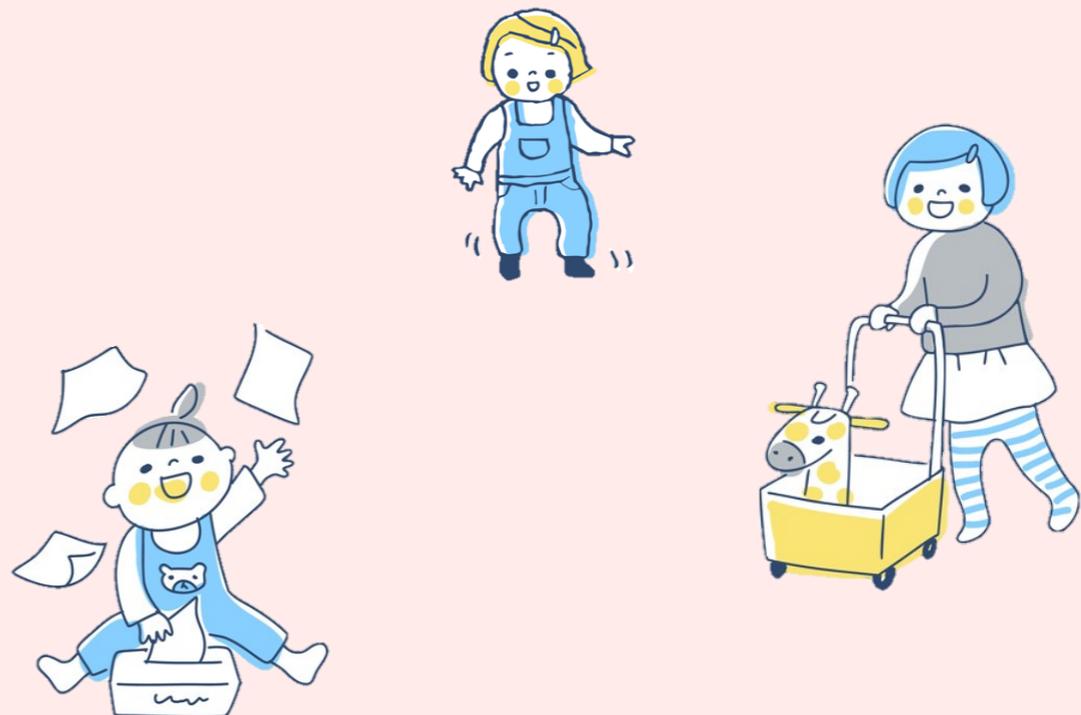
③パンフレット（20ページもの）

みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

表紙



- A** • タイトル枠内の「居たい」「行きたい」「やってみたい」それぞれの文字色と枠の中の人の服の色を合わせても良いと思う。イラストの左の人が青（居たい）、真ん中が赤（やってみたい）、右が緑（行きたい）のイメージである。（小学生）
- B** • タイトルの枠の中にある人をもっと大きくしても良いと思う。（小学生）



2. 広報資料（案）について

オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

③パンフレット（20ページもの）

みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

目次

**こどもの
「居たい」「行きたい」「やってみたい」
居場所の選択肢を広げる**

令和3年12月21日閣議決定した「子ども政策の新たな推進体制に関する基本方針」において、「こども家庭庁はこどもが安心して過ごすことができる場の整備に関する事務を所掌し、政府の取組を中心的に担う」こと、「こどもの居場所づくりに関する指針（仮称）を閣議決定し、これに基づき強力で推進」することが定められました。

これを踏まえ、こども家庭庁の発足を待たずして、国では「こどもの居場所づくりに関する調査研究」を実施し、令和5年4月21日には、内閣総理大臣からこども家庭審議会に対し、こども家庭庁設置法に基づき、「こども大綱」の案の作成に向けた今後5年程度を見据えたこども施策の基本的な方針及び重要事項等の検討とあわせて、「こどもの居場所づくりに関する指針」の案の策定に向けた具体的な事項の検討が諮問されました。

本パンフレットの使い方

A

目次

01 長官メッセージ	02 こどもの居場所
03 こどもの居場所とは	04 こどもの居場所ってなに？
07 こどもの居場所づくりとは	08 こどもの居場所づくりってなに？
09 基本的な視点と共通事項	14 国や自治体、地域の人の役割
15 地方自治体の役割	18 「居たい」「行きたい」「やってみたい」

1

- A** • 目次の左半分の黒字のほうは「こども」を漢字にして、右側のほうは平仮名（こども）にしたほうが見分けやすいのではないかと。（小学生）
- B** • 「03 こどもの居場所とは」と「07 こどもの居場所づくりとは」は最後に「？」をつけたほうが良いのではないかと。（小学生）



2. 広報資料（案）について

オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

③パンフレット（20ページもの）

みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

マンガ



- A**
- カラーにしたほうが良いと思う。セリフも長い文章ではなく短い文章にしたほうが良い。（小学生）
 - 小学生にとっては漢字が多い気がするので、簡単な漢字だけを使ったり、フリガナを付けたほうが良い。（高校生世代）
 - ボリュームが多いため、小学生は理解をしながら読まない^{むずか}と難しいかもしれない。一コマ当たりの情報量や文字数が多く、一生けんめい読まないといけ^{かんたん}ない印象を受けた。（20代後半）

- B**
- 右下の「居場所づくりの主人公は君たち！」のコマをカラーにするなどして強調したほうが良いのではないか。（小学生）
 - 大人が居場所づくりをサポートすることは伝わるが、「居場所を僕たちがつくらなくちゃいけないんだ」と子どもたちはプレッシャーに感じてしまう^{ぼく}かもしれない。（20代後半）

2. 広報資料（案）について

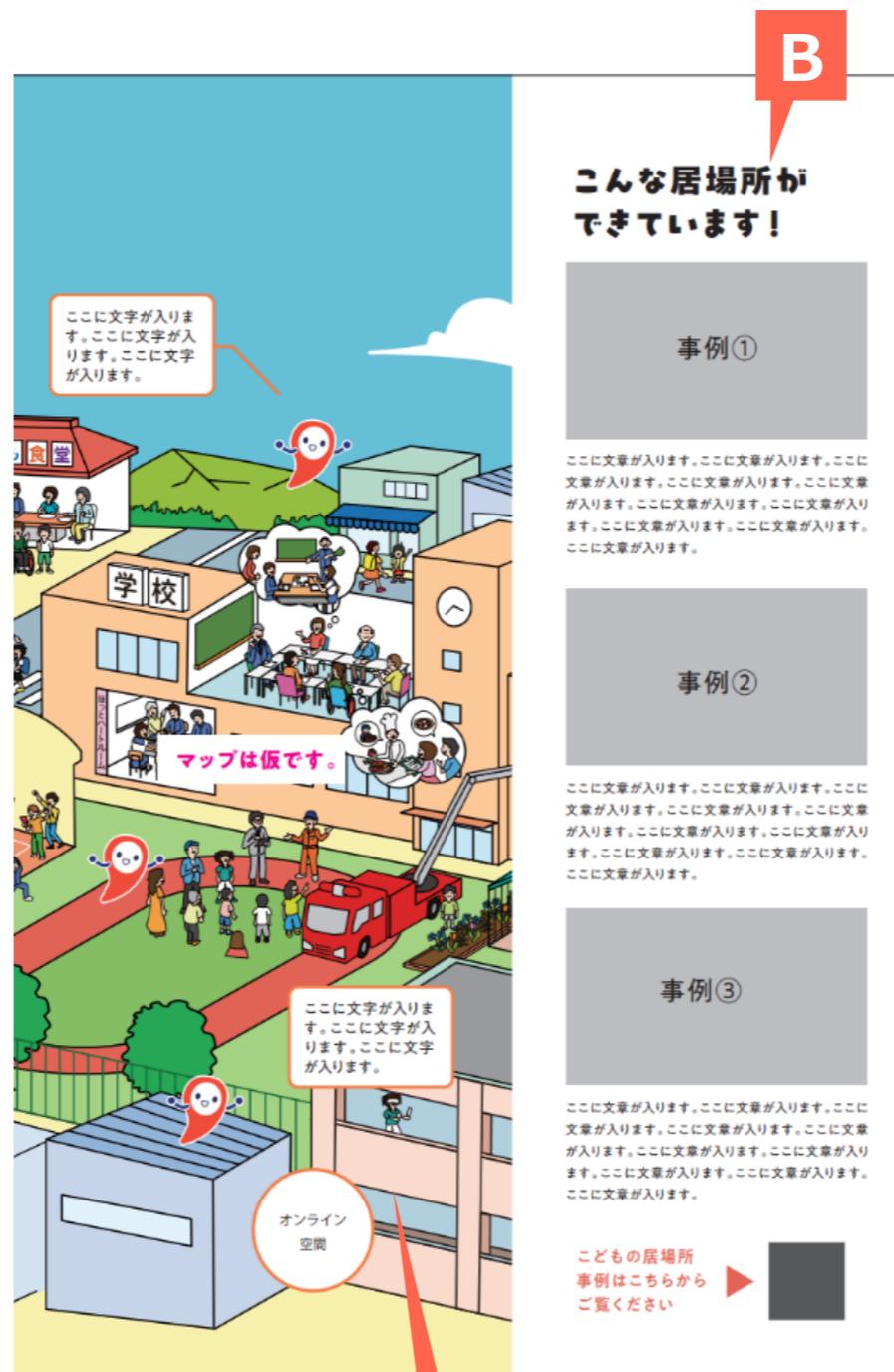
オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

③パンフレット（20ページもの）

みなさんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

マップ



A

- 人物のイラストが小さすぎる。（小学生）

B

- どんな居場所をつくっているかを最も伝えたいと思うが、居場所の例が強調されずさらっと終わってしまっている。一番強調したいところはページを割いてよいと思う。（20代前半）

C

- 右下の「オンライン空間」をもうちょっと大きくしたりして分かりやすくしたほうが良い。（小学生）
- 「オンライン空間」の文字からVRをやっている人のイラストに向けて線を引いたほうが見てもらえると思う。（小学生）

2. 広報資料（案）について

オンライン

こどもまんが
こども家庭庁

広報資料をどのように活用すれば、^{わかもの}こども・若者の目にとまりやすいと思いますか。

① 解説動画

テレビで流す

- 虐待^{ぎやくたい}されている子はスマホを自由に使えなかったり、そもそもスマホを持っていなかったりするので、動画^{とど}が届かないかもしれない。TVで流したり学校の授業^{しやうかい}で紹介したりすると良いかもしれない。（高校生世代）

検索結果^{けんさく}に表示されやすくする

- YouTubeや検索サイトで「虐待」や「ヤングケアラー」、「家に帰りたくない」という単語を調べるとこの動画が一番上に表示されるようにしてほしい。（高校生世代）



配信サービスで流す

- YouTubeなどに広告として出せば知ってもらいやすい。YouTubeはよく見ている。（小学生）
- Spotifyのように無料版ユーザーは広告をスキップすることができない仕組みにすれば、半強制的ではあるものの聞いてもらうこと自体はできるので、比較^{ひかく}的^{せんてん}宣伝効果が高くなると思う。（高校生世代）



②③ パンフレット（1ページ・20ページ共通）

学校^{あつか}で取り扱う

- 新聞の号外のように街中や学校の前で配る。（小学生）
- パンフレット^はは貼るだけでなく、授業で取り上げることが必要だと思う。（20代後半）

こども・若者^{しえん}の支援者に届きやすくする

- 自治体や社会福祉協議会^{ふくし}に呼びかけることで、少しでも多くのこどもを助けられると思う。（20代前半）

デジタルを活用する

- 漫画^{まんが}について、パンフレットとして配布するよりXなどのSNS^{とうこう}に投稿した方が良いと思う。（高校生世代）
- 学校で一人一台配布されている端末^{たんまつ}から簡単にパンフレットを見られるようになったらいいと思う。（高校生世代）
- 紙媒体で配布した場合、学校に行けていないこどもに届かない可能性があるため、デジタル化して広告などにした方が良いと思う。（高校生世代）

2. 広報資料（案）について

アンケート

広報資料をどのように活用すれば、こども・若者の目にとまりやすいと思いますか。

SNSを活用する

- やはり今1番浸透している情報伝達手段はSNSであるため、それを最大限活用するのが良いと思います。(中学生)

メディアを活用する

- ACの広告に広報マンガのキャラクターを登場させて喋らせてみたい。(中学生)
- こども向け番組のCMなどに取り組んだり、テレビ内で放送する。(高校生年代)

人気コンテンツとコラボする

- インフルエンサーにも協力をお願いする。(20代前半)
- こどもたちが好きそうなキャラクターを広報にする。(20代後半)

よく目にする場所で取り扱う

- 駅やスーパーなどにおいておくと、学校に行きづらいこどもにも届くかもしれません。(20代後半)
- 地下鉄や電車、バスなどこども・若者が利用する場所に掲示する。(20代後半)
- みんなが居る場所に広報する。図書館や塾など。(中学生)



学校で取り扱う

- 小中学校では道徳で扱う。高校ではクラスルームに乗っけて、必ず目を通すようにとかにする。(高校生年代)
- 冊子で配るよりも小学なら生活科、中学なら家庭科の教科書に印刷した方が授業中かもしれないが読む人が増えると思う。(中学生)
- 学校で配る。「こども」と書かれたパンフレットが自分の学年も対象なのか分からなくて困る、ということが自分の小中学生時代にあったので、教室で一括で配るなど、対象年齢が分かったほうが迷わなくて済む。(20代後半)



さまざまな媒体を活用する

- ファーストフードの店のトレイに敷かれている紙やファミレスのメニュー表に広報マンガの簡易版を載せて、QRコードから近くの安全な居場所やオンライン空間を表示できるようにする。(中学生)
- お菓子や飲み物のパッケージに載せる(高校生年代)
- パンフレットを県や市の広報誌に載せる。こども広報誌のようなこどもが見やすいものをつくる。このような活動があると分かりやすいもの。(20代前半)

興味を持ってもらう

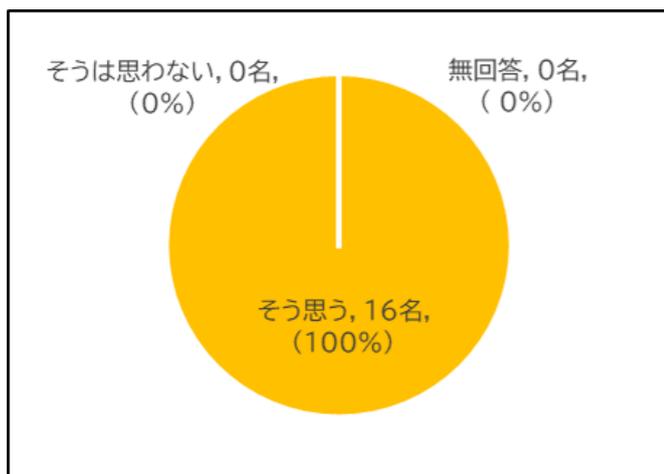
- 実際にこども達の手に渡りやすくするよう工夫する。(鉛筆や消しゴムなどのおまけをつけてポストインするなど) (20代前半)

参加者アンケート （一部を抜粋して掲載）

オンライン

こどもまんなか
こども家庭庁

「いけんひろば」に参加してよかったですか？



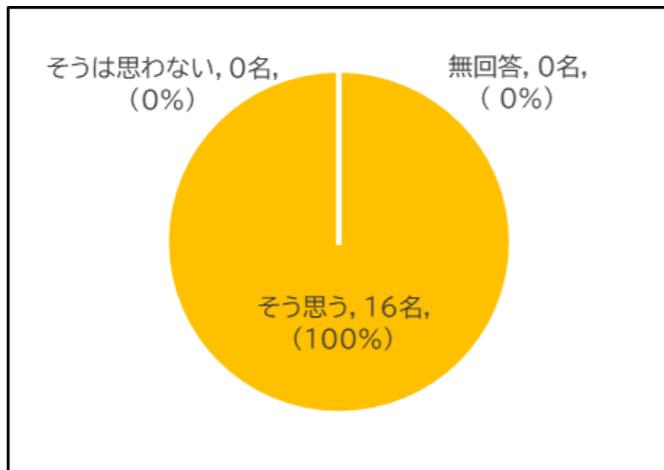
「そう思う」の理由（自由回答）

様々なバックグラウンドがある中で、自分の周囲のことも踏まえて意見が聴けたのが多角的な視点が得られておもしろかったです。

意見を受け止めてくれる場だったから。

普段周りの人とこどもの時のネガティブな話をする機会がないため、貴重な経験になったから。

今日の「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？



話したいと思ったことを言うのがむずかかった理由や、言い足りなかったこと（自由回答）

「広報資料はどうしたら目にとまりやすいか」という視点だけでなく、「どのように活用したら意見を集めやすいか」という視点も追加したほうがいいと思った

今日この場で質問されるとうまく言えないことがあったので、事前にどんな質問があるのか教えていただきたいです

ファシリテーターの方がわかりやすく自分の意見をまとめてくれたので、ある程度まとまっていなくても発言して大丈夫だという気持ちになったから。

そのほか、今日の「いけんひろば」についての感想を教えてください。

子どもの居場所について、自分の経験も踏まえて話すことができましたし、他の方の意見も自分にはなかった視点の意見などもあって視野が広がりました。またいけんひろばに参加したいです。ありがとうございました。

今日のいけんひろばに参加して普段は聞くことの難しい他者の話を聞くことが出来た。その中でもやはりデリケートな話であったり初めて外部に話すということを経験したり様々あったためとても学ぶことが出来た。また機会があればいけんひろばに参加したいと考えた。